

5. 国境通関の事例:②タイ・ミャンマー間(東西経済回廊)

現状

- タイからミャンマーへの輸送は多いが、逆は少ない
- 相互走行ができないため、タイのトラックはミャンマーのインランド・デポでの積み替えが必要
- 貨物の通関は、国境通関にE-Customs（タイ全土の税関で利用可能）で申請
- 申請後グリーン/レッドの判別がなされ、レッドの場合（1～2割）のみX線検査の対象となる
- ミャンマー側の迂回路の整備（2015年8月）でリードタイムの短縮

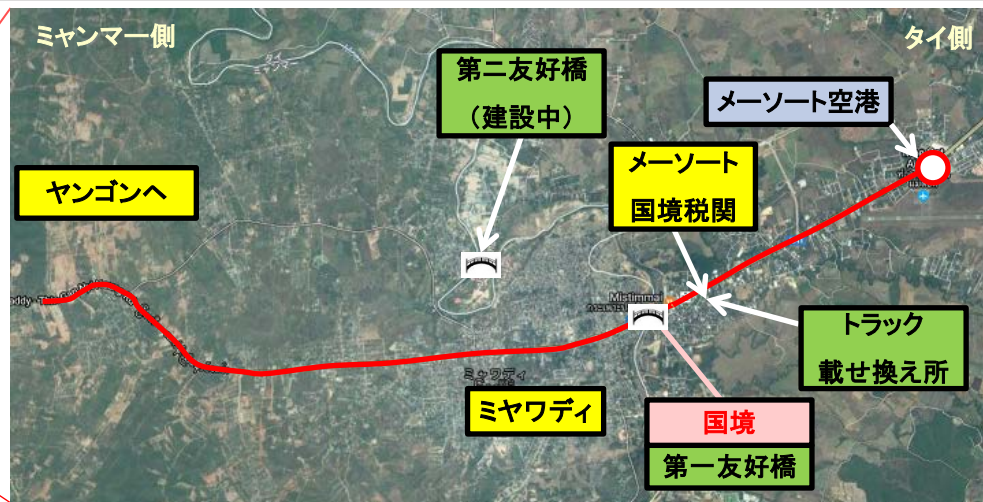
問題点

- 片荷となり、輸送コストが高くなる
- タイ側のE-Customsは独自の通関システムのため、ミャンマー側MACCSとの互換性がなく、システム上の連携には技術的なハードルがある
- ミャンマー側のフリーゾーン（貨物の積み替え場）には、数は多いものの小さいウェアハウス（トラックと積荷で一杯になる）しかなく、冷蔵・冷凍倉庫もない
- 第一友好橋は重量制限あり。ミャンマー側の道路が未整備

イミグレーション施設



ミャンマーに向けて一列で待機するトラック

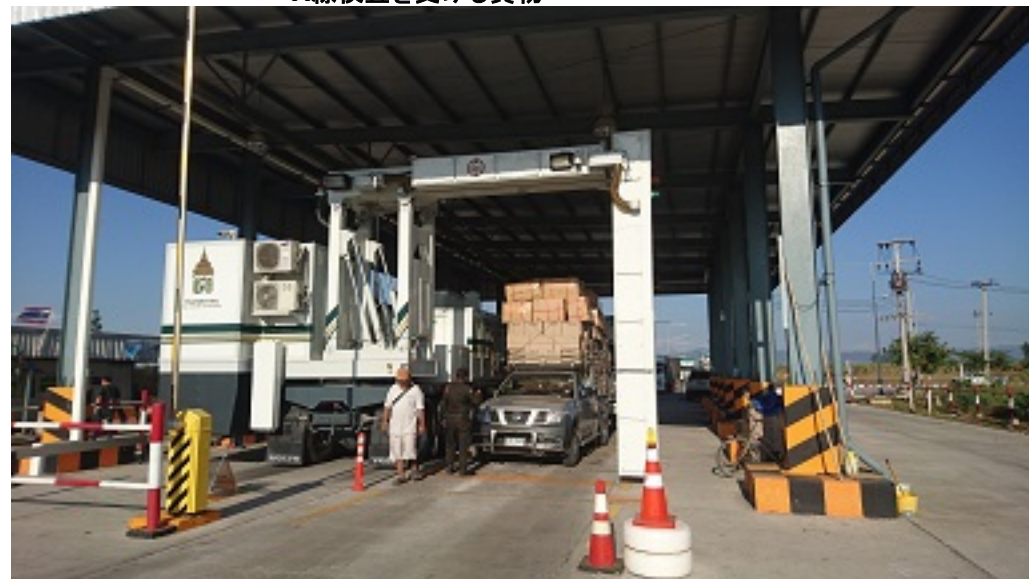


出所: 大和総研作成

出所: 大和総研撮影(2017年1月)

5. 国境通関の事例:②タイ・ミャンマー間(東西経済回廊) 続き(税関でのX線検査の様子)

X線検査を受ける貨物



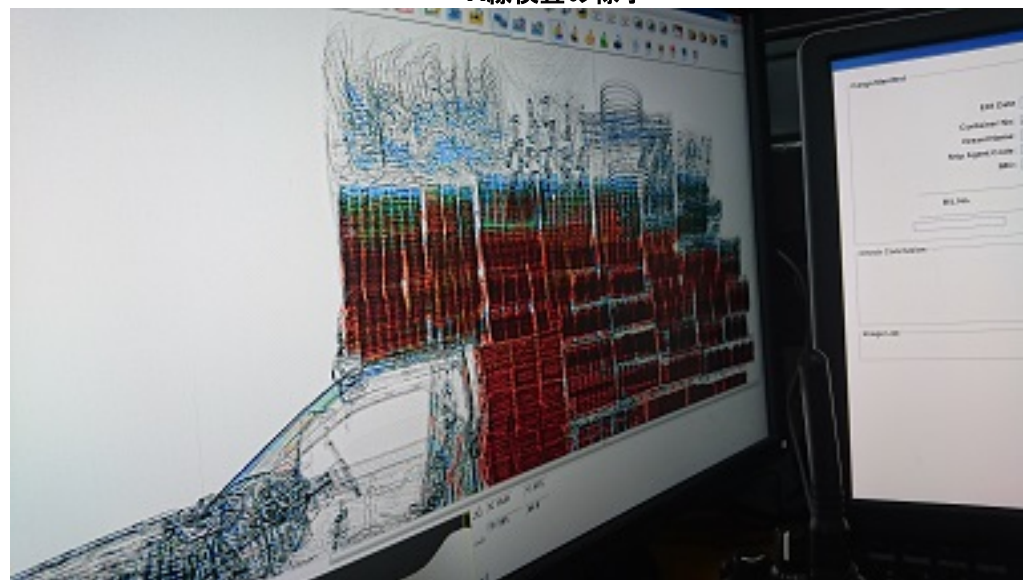
画面を見ながら作業する税関担当者



モニター画面の様子



X線検査の様子



6. メコン5カ国における比較:通関制度・手続き

- 5カ国全てにおいて電子通関システムが導入されているが、完全なペーパーレス化は実現していない
- 諸手続きには依然として時間を要し、不要な手数料支払いなどの問題も

	タイ	ベトナム	ラオス	カンボジア	ミャンマー
主な特徴	全ての輸出入申告から関税支払まで電子化	ポータルサイトで一括処理が可能	ラオバオ・デンサワンでシングルストップ化	税関に加えて商業省カムコントロールが関与	電子通関システム導入。他制度導入中
手続きの電子化	○	○	○	○	○
電子通関システム	E-Customs (2007/1～)	VNACCS (2014/4～)	ASYCUDA (2011～)	ASYCUDA	MACCS (2016/11～)
電子通関導入地域	全国	全国	全国11カ所	全国22カ所	一部 (港、空港、ティラワ)
事前教示制度	あり	あり (十分機能せず)	あり (十分機能せず)	あり	試験導入中 (相談窓口もあり)
事後調査制度	あり	あり	(調査中)	あり	導入予定
AEO制度 (Authorized Economic Operator)	あり (日系の認定事業者も)	(調査中)	(調査中)	類似制度あり Best Traders Initiative (BTI) (2014/6～)	導入予定 (2017/10～)
ナショナルシングルウィンドウ (NSW)	あり	あり (2015年～一部、 2020年までに全省庁)	無 (商工省とで取組中)	無	無 (準備中)
ASEANシングルウィンドウ	試験運用中	試験運用中	無	無	
シングルストップ (輸出入検査の共同実施)	準備中 (ラオスとの共同管理区域)	2015/5より、ラオス国境(ラオバオ)にて共同検査を実施	・ベトナム国境(デンサワン)で利用開始 ・タイ側で準備中	無	無
主な問題点	事業者側で関税率を計算するのが手間	・書類の提出が必要 税関のキャパシティ不足(人員、設備など)	書類の提出が必要	書類の提出が必要	・書類の提出が必要 ・国境電子化がまだ

7. 各国比較:メコン5ヵ国における低温輸送(コールドチェーン)の整備状況

現状

- 経済成長に伴う所得水準の向上により、冷蔵・冷凍食品の需要は増加
- タイでは冷蔵冷凍倉庫も集積し比較的整備が進んでいる
- CMVでは近年、最新の低温物流施設建設が進んでいる

問題点

- 国によっては冷蔵トラックやドックシェルターの不足、保管・配送の過程での温度の管理不足などからコールドチェーンが分断され、鮮度や品質が劣化するケースも少なくない

【ラオス】

- なし

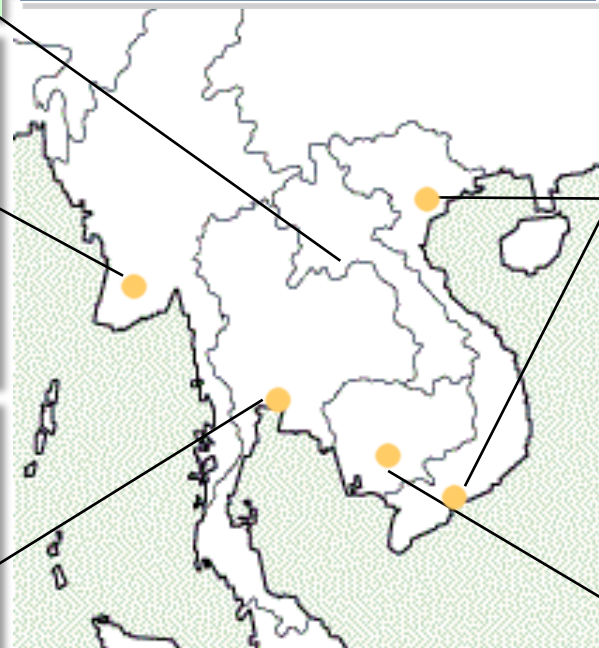
【ミャンマー】

- 双日ロジスティクス
3温度帯での物流事業
- 国分(KOSPA)
2015年、低温物流センターを開設
- 両備HD
ティラワSEZとヤンゴンに最新鋭物流倉庫を建設中

【タイ】

- 横浜冷凍/商船三井(Thai Yokorei)
- 川崎汽船(Bangkok Cold Storage Service)
- 五十嵐冷蔵/商船三井(Thai Max Cold Storage)
- 鴻池運輸(Konoike Cool Logistics)
- マルハニチロ(JPK Cold Storage)、etc

低温物流関連の主な日系進出例



【ベトナム】

- CLK Cold Storage(川崎汽船、日本ロジテム)
2016年7月、冷凍冷蔵倉庫(7,000㎡)
- MLC ITL Logistics(三菱倉庫)
- 両備HD
- 鴻池運輸
3温度帯で冷凍品等輸送
- 郵船ロジスティクス
イオン・カンボジア向けの定期便
- 佐川SG
3温度帯の冷凍・冷蔵倉庫

【カンボジア】

- 郵船ロジスティクス
2016年8月、冷蔵・冷凍機能付き物流施設を新設
- 鴻池運輸
冷蔵冷凍品の定期トラック混載便(ベトナム・タイ間)

(全体編)

第1章 メコン圏における流通・環境の概要

1-1. メコン圏における食品流通概要

1-2. 物流インフラ(経済回廊等)の状況

1-3. 輸出入に係る現状

①輸出入規制の比較

②通関手続きの比較

1-4. アセアン経済共同体における投資規制

①投資規制の比較

②投資優遇策の比較

(各国編)

第2章 タイにおける流通・環境の概要

2-1. 農林水産物・加工食品の流通

①国内における流通状況

②隣国との流通状況

2-2. 物流インフラの状況と課題

①道路・輸送インフラの整備状況

②コールドチェーンの普及状況

③インフラ整備計画

2-3. 食品の輸出入に係る現状と課題

①輸出入規制

②通関手続き

③原産地証明

2-4. 投資上の現状と課題

①投資規制

②投資優遇策(投資恩典、SEZ)

第3章 ベトナムにおける流通・環境の概要

第4章 カンボジアにおける流通・環境の概要

第5章 ラオスにおける流通・環境の概要

第6章 ミャンマーにおける流通・環境の概要

(第2章と同様の構成)

第7章 第メコン圏における課題と施策

7-1. 課題の整理

7-2. 課題解決に向けての施策